

こむちゃリスナー意識調査報告書 (2011年12月)

～ 正直、『最近のこむちゃ』ってどうなのよ? ～

もりりん牧場のSchu
(WEBサイト『もりりん牧場』管理人)
<http://www.geocities.jp/moririnbokujo/>

『Party-Life!!』(以下『こむちゃ CD』と称す)が、8月以降のこむちゃで繰り広げたこと』に関するアンケートを実施したので報告する。

1. はじめに

次の文章は、当アンケート企画趣意書の前文に使用したものである。

(注:あたしの主観的意見です。)

話は8月に遡ります。

ある曲が『オリコンでの初動順位 & 売上』の相関を明らかに無視した形で入ってきました。

その曲は我が物顔で進軍し、あらゆるものを蹴散らしていきました。

そして11月5日……、ついに(あたしにとっての)『最悪の悲劇』が起こってしまったわけです。あたしは(悲劇が起こった瞬間)即座にコラム[※]を発表したほどです。

ところが、twitterのTLを見てみると(あたしにとっては)意外にも『賞賛』の声が多数見受けられ、(あたしと同じような)『嘆き』の声はほとんど無かったです。

当初からあたしの意見は『マイノリティ』だという認識はしていましたが、これはひょっとかしたらマイノリティどころか『時代遅れの異端』なんじゃないかと(ある意味で)心配になりました。

この『即座に発表したコラム』というのが、私が書いた中で最も過激な内容の『緊急コラム(12)』だ。私はそこまで追い詰められていたのだ。

2. アンケート

2.1 実施目的

(1)『こむちゃ CD がここ数ヶ月の間こむちゃで繰り広げたこと』について、こむちゃリスナーの皆さんの率直な意見を集めることを第一番目の目的とした。

(2)当アンケートの結果を公表することで、こむちゃリスナーの皆さんに『こむちゃの在り方』についてもう一度考えていただくことを第二番目の目的とした。

2.2 実施概要

私が運営するサイト『もりりん牧場』の6周年記念企画として、以下のような条件の下に調査を実施した。

調査期間: 2011年11月12日～12月12日

調査場所: アンケートツクレール様(<http://enq-maker.com/>)においてアンケートを作成・公開

調査方式: 無記名式アンケート・多肢択一式設問10問(必須回答) + 自由回答設問1問(任意回答)

調査実施の告知方法: 『もりりん牧場』サイト内での告知の他、Twitterにて『アンケート実施中』のツイートを『#comcha』・『#agqr』・『#こむちゃ』の3種のハッシュタグ付きで、期間中1日につき1回以上送信

2.3 設問

以下の11の設問を用意した。(選択肢は省略・原文まま)

(問1) まず、あなたの性別を教えてください。

(問2) 次に、あなたの年齢を教えてください。(該当するものを選んでください)

(問3) あなたのドリカン・こむちゃリスナー歴はどのくらいですか？(該当するものを選んでください)

(問4) 11/5 付のランキングの結果「Party-Life!!」(いわゆる『こむちゃ CD』)が年間暫定1位に浮上しましたが、これについてどう思いますか？

(問5) この件について一部『こむちゃを批判するコメント』を発表しているリスナーが居ますが、これについてどう思いますか？

(問6) よく『特定の歌手に対して評価が甘い(辛い)』という意見がありますが、ランキングの決定時に何らかの意図的な補正が加えられていることがあると思いますか？

(問7) 今回の一連の騒動が起こった最大の要因はどこにあると思いますか？

(問8) ちなみに、文化放送のもうひとつのランキング番組『FRIDAY SUPER COUNTDOWN 50』(スパカン)におけるこむちゃ CD の成績は『記録なし』。このように2番組で対照的な結果が出ましたが、このことについてどう思いますか？

(問9) 今回の件で、こむちゃ・こむちゃ CD 支持派と反こむちゃ CD 派との間に溝ができたと思いますか？溝ができていたとしたらそれは修復可能だと思いますか？

(問10) ズバリ、こむちゃはあとどのくらい続くと思いますか？

(問11) 最後に、現在のこむちゃに対して一言お願いします。

3. 結果

調査の結果、51名からの回答をいただき、以下のような結果が得られた。

3. 1 リスナー層 (設問1~3)

3. 1. 1 男女比

男性	40名	(78%)
女性	11名	(22%)

男女比はおよそ4:1という結果になったが、必須回答項目には次問の『年齢』も含まれているため敬遠したということが十分に考えられる。実際には女性リスナーは3割程度から最大で4割近くまでいるのではなかろうかと思われる。

3. 1. 2 年齢層

14歳以下	3名	(6%)
15~19歳	9名	(18%)
20~24歳	21名	(41%)
25~29歳	9名	(18%)
30~34歳	7名	(14%)
35~39歳	2名	(4%)
40歳以上	0名	(0%)

10代前半から30代後半までという広範囲の山状に広がった分布の中心は、20代前半であった。残念ながら、40代以上という回答はなかった。

3. 1. 3 リスナー歴

15年以上	2名	(4%)
12以上15年未満	5名	(10%)
9年以上12年未満(少なくともドリカンがやってた頃から)	11名	(22%)
6年以上9年未満(こむちゃが始まってから)	10名	(20%)
3年以上6年未満	15名	(29%)
1年以上3年未満	4名	(8%)
1年未満	4名	(8%)

こむちゃ開始以降から、かつ、リスナー歴3年以上というのが全体のほぼ半数であった。また、ドリカン時代からのリスナーは全体の3分の1に達し、中にはドリカン初期から15年以上にもわたって聴き続けているリスナーもいた。

3. 2 『こむちゃCD』の年間1位 (設問4・5)

3. 2. 1 『こむちゃCD』の年間1位について

当然の結果だ(積極的な支持)	9名	(18%)
よくやったと思うからこれでいいのでは(消極的な支持)	6名	(12%)
どうとも言えない	4名	(8%)
なってしまったものは仕方がないが真に残念だ(消極的な反対)	24名	(47%)
断じて許されない(積極的な反対)	8名	(16%)

ほぼ半数が「『こむちゃ CD の年間1位』は受け入れこそするが、真にもって残念でならない」という感想を表しているが、「当然の結果」や「断じて許されない」といった両極端な意見もそれぞれ2割近くいた。ただ、『どうとも言えない』の選択肢が『思うところや感想といったものは特にはない』であったらパーセンテージは多少変化したであろうと思われる。これは筆者自身の質問力・文章力不足である。

3. 2. 2 『こむちゃ批判コメント』について

こむちゃを批判すること自体理解できない(積極的な否定)	7名 (14%)
物申したいのは解るがコメントに同意はできない(消極的な否定)	14名 (27%)
人それぞれなのでどうとも言えない	13名 (25%)
コメントには同意するがこれはやり過ぎだ(消極的な同意)	8名 (16%)
よくぞ言ってくれた(積極的な同意)	9名 (18%)

「『こむちゃ批判コメントを発表する行為』に一定の理解は示すが、そのコメント自体には同意できない」・「それぞれのリスナーによってその価値観は違うから、自分がどうこう言うことはできない」の2つがそれぞれ4分の1、残りの3つがまたそれぞれ均等な配分であった。

3. 3 歌手間の評価判定格差 (設問6)

そんな事は過去にも未来にも決して無い	6名 (12%)
断定はできないが無いと思う	6名 (12%)
どうとも言えない	9名 (18%)
この現象を説明するには補正があったほうが楽かもしれない	21名 (41%)
そんなの日常的にやっている	9名 (18%)

「『不可解なランキングアクション』の謎を解明するには、『何らかの補正項』というものがあると考えたほうがいいのかもしれない」というのが4割に達する最多意見であった。

3. 4 『スパカン』における『こむちゃ CD』 (設問8)

スパカンで『記録なし』なのは当然だ	11名 (22%)
予測の範囲内だから驚くほどではない	16名 (31%)
一般曲も有りのスパカンと比較するのはここでは意味が無い	19名 (37%)
せめて1週でも入れれば御の字だったのだが	4名 (8%)
スパカンでも勝てたはずだ	1名 (2%)

半数が「『こむちゃ CD』がスパカンでどうこうできたとは思えない」という否定的な見解であったが、最多意見は「そもそもの『土俵』が違う2番組を比較することに意味は見出せない」というものであった。

3. 5 今回の『こむちゃ CD』をめぐる騒動について (設問7・9)

3. 5. 1 騒動の要因について

『こむちゃ CD』をランクイン対象にしたこと	8名 (16%)
『こむちゃ CD』が年間暫定1位に浮上したこと	20名 (39%)
一部の批判的な人々が大袈裟に騒ぎ立てたこと	12名 (24%)
ってか、騒動なんて起きてたの？	7名 (14%)
その他(上の4つ以外)	4名 (8%)

「年間1位になったこと」や「批判家が大袈裟に騒いだこと」といった、『起こった結果』が騒動に起因しているといった意見が大半であったが、「ランクイン対象にしたこと」という『事の発端』が原因だという回答も少なからずみられた。

3. 5. 2 こむちゃリスナー間に生じた『溝』について

そもそも溝など存在していない	10名 (20%)
溝はできたが修復は難しくない	13名 (25%)
こむちゃの今後次第でどう転ぶかわからない	14名 (27%)
できた溝の修復には長い時間が必要	12名 (24%)
この溝を修復できたらノーベル平和賞級	2名 (4%)

「溝はない」「溝は浅い」「こむちゃの今後次第」「溝は深い」の4つでほぼ均等に分かれた。

3. 6 こむちゃの『番組として』の行方 (設問10)

次('12春)の改変で終わる	4名 (8%)
ちょうど10年になるからあと1年弱かな	11名 (22%)
もう2~3年はいけるのでは	14名 (27%)
5年くらいは問題ないでしょ	13名 (25%)
こむちゃは永遠に不滅だ	9名 (18%)

「何年先になるかはわからないが、いずれ『番組の終焉』はやってくるだろう」というのが大半に共通した見解であった。

3. 7 こむちゃに対するリスナーの声 (設問11)

長くなるので、この項目については第6章にて取り扱うことにする。

4. 筆者自身の回答

参考までに、筆者自身はこのアンケートに対して次のように回答した。(前章の結果には含めていない)

(問1) 男性

(問2) 35~39歳(※該当する選択肢がアンケート実施期間中に変化したため、変化後のものを選択)

(問3) 15年以上

(問4) 断じて許されない(積極的な反対)(※『緊急コラム(12)』にて言及)

(問5) よくぞ言ってくれた(積極的な同意)(※筆者自身が緊急コラムにて多数の批判コメントを公表している)

(問6) この現象を説明するには補正があったほうが楽かもしれない(※『緊急コラム(9)』にて言及)

(問7) 『こむちゃCD』をランクイン対象にしたこと(※『緊急コラム(12)』にて言及)

(問8) スパカンで『記録なし』なのは当然だ

(問9) できた溝の修復には長い時間が必要(※『緊急コラム(12)』にて言及)

(問10)ちょうど10年になるからあと1年弱かな

(問11)(※第7章で述べるので割愛)

5. 考察

5.1 リスナー層解析

性別・世代・リスナー歴の3項目の回答を、多角的に重ねたものを次の表に示す。ここで、各セルの上段は男女合わせた全体値、下段のカッコ内は男性/女性それぞれの値である。

	15年～	12～15年	9～12年	6～9年	3～6年	1～3年	1年未満	計
～14歳	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	1 (0/1)	1 (1/0)	3 (2/1)
15～19歳	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	1 (0/1)	3 (1/2)	3 (2/1)	2 (2/0)	9 (5/4)
20～24歳	0 (0/0)	1 (1/0)	2 (2/0)	8 (7/1)	9 (6/3)	0 (0/0)	1 (0/1)	21 (16/5)
25～29歳	0 (0/0)	0 (0/0)	7 (6/1)	1 (1/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	9 (8/1)
30～34歳	1 (1/0)	4 (4/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	7 (7/0)
35～39歳	1 (1/0)	0 (0/0)	1 (1/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	0 (0/0)	2 (2/0)
計	2 (2/0)	5 (5/0)	11 (10/1)	10 (8/2)	15 (10/5)	4 (2/2)	4 (3/1)	51 (40/11)

世代とリスナー歴には弱いながらも相関がみられ、20代前半以下ではこむちゃ開始以降、20代後半以上ではドリカン時代からという回答が多かった。

5.2 『こむちゃ支持派』と『こむちゃ批判派』

5.2.1 こむちゃに対する『姿勢指標値』について

こむちゃ、および、こむちゃCDに対する『支持度』・『批判度』を計るため、設問4～8の5問について、選択肢それぞれに+2～-2の『姿勢指標値』を設定した。プラス側が『支持』の回答、マイナス側が『批判』の回答を表している。各設問に設定した指標値は次の通りである。

指標値	+2	+1	±0	-1	-2
(問4)	当然の結果	これでいい	どうとも 言えない	真に残念だ	許されない
(問5)	批判自体 理解できない	コメントには 同意できない	どうとも 言えない	これは やり過ぎだ	よくぞ 言ってくれた
(問6)	過去も未来も 決して無い	無いと思う	どうとも 言えない	あったほうが 説明が楽	日常的に やっている
(問7)	批判的な人が 騒ぎ立てたこと	騒動なんて 起きてたの？	その他	年間1位に 浮上したこと	ランクイン 対象にしたこと
(問8)	スパカンでも 勝てた	せめて1週でも 入れれば	比較するのは 意味が無い	予測の 範囲内	『記録なし』は 当然だ

また、各設問の指標値の合計によって、『こむちゃへの姿勢』を次の7段階に分類した。

合計値	-8~-10	-5~-7	-2~-4	-1~+1	+2~+4	+5~+7	+8~+10
分類	強い 批判派	批判派	若干 批判派	中道的	若干 支持派	支持派	強い 支持派

これによると、前章で挙げた筆者自身の回答では指標値はそれぞれ

(問4):-2 (問5):-2 (問6):-1 (問7):-2 (問8):-2

で、その合計は

$-2-2-1-2-2=-9$

となり、『強い批判派』に分類される。

アンケートに回答いただいた51名の『こむちゃへの姿勢』の分布は次のようになった。

	強い 批判派	批判派	若干 批判派	中道的	若干 支持派	支持派	強い 支持派
人数	6	8	14	10	6	4	3

中道的から若干批判派寄りのところに分布の中心が現れた。

5. 2. 2 『リスナー層』と『こむちゃへの姿勢』との相関

こむちゃの『リスナー層』と『こむちゃへの姿勢』に関して、何らかの相関が存在するのかどうか検証してみる。

まず、男女別との関係から。

	強い 批判派	批判派	若干 批判派	中道的	若干 支持派	支持派	強い 支持派
男性	6	6	12	7	5	3	1
女性	0	2	2	3	1	1	2

この条件では、特に目立った相関は見られなかった。

次に、年齢層との関係。

	強い 批判派	批判派	若干 批判派	中道的	若干 支持派	支持派	強い 支持派
14歳以下	0	0	1	2	0	0	0
15～19歳	1	1	1	1	0	3	2
20～24歳	1	4	5	4	5	1	1
25～29歳	3	2	4	0	0	0	0
30～34歳	1	1	3	2	0	0	0
35～39歳	0	0	0	1	1	0	0

支持的な姿勢をとっている層は、ほとんどが20代前半以下の世代であった。

最後に、リスナー歴との関係。

	強い 批判派	批判派	若干 批判派	中道的	若干 支持派	支持派	強い 支持派
15年～	1	0	0	1	0	0	0
12～15年	0	0	2	3	0	0	0
9～12年	2	2	6	0	1	0	0
6～9年	1	2	3	1	3	0	0
3～6年	1	4	3	2	1	1	3
1～3年	1	0	0	2	0	1	0
1年未満	0	0	0	1	1	2	0

こむちゃ開始以降からのリスナーでは特に明確な相関は見られなかったが、ドリカン時代からのリスナーでは批判的な姿勢をとる割合が高かった。恐らく『ドリカン後期～末期に起こったこと』と今回の状況を重ねあわせていたのではないだろうかと思われる。

6. アンケート回答者様による『こむちゃへのメッセージ』

このアンケートの『設問11』にて寄せられた『こむちゃへのメッセージ』を、回答者様のリスナー層・こむちゃへの姿勢情報を付加して回答をいただいた順に紹介させていただく。

(注:基本的に『原文まま』だが、改行位置の調整以外の修正については個別に注釈する)

- こんな事をしていたらドリカン末期の二の舞になりますよ(20代後半・男性・9～12年・批判派)
- 振り返ってみると今年のコムチャは激動の1年だったなと感じています。こと去年までは絶対的な勢力を誇っていた水樹奈々が今年シングル3枚出して勝てたのは1枚だけ、しかも全て1000点届かずと言う結果になったのにはコムチャ戦国時代の到来を予感させるところがあります。その中で新たなチャンピオンに相応しいだけの広い支持を集めるアーティストが出なかったために、パーソナリティコンビが一旦勝負を預かった、と考えておこうかなと思っております。今後もコムチャCD第2弾第3弾が出て、気がついたら1年52週の半分近くトップがコムチャCDだったとかなったら怒ると言うよりランキングにつまらなさを感じてしまうかも知れませんが、自分で自分の首を絞めるような愚行はさすがにしないでしよう、と思っておきます。(20代前半・男性・6～9年・若干支持派)

- なるようになれだと。根拠は先週日曜日の”伏線”(30代前半・男性・3～6年・批判派)
(※この文章の句点の位置は原文では改行(句点なし)でしたが、文章の読みやすさを考慮して句点を挿入しました)
- 受験勉強中なので当然)最近全然聞いてなかったのですが、なんかチャートがとんでもないことになったという風の便りが聞こえてきて、『外から見た形で』アンケートに参加させていただきました。年間1位はその年の代表曲になるべき。DJ操作で年間1位を変えるとか絶対許されない行為だと私は思います。そんなに『15歳の女子2人』に年間1位を獲らせたくないのでしょうか。あまりに大人げなさすぎます。(10代後半・男性・1～3年・強い批判派)
(※冒頭に回答者様のお名前が入った挨拶文がありましたので、その部分は削りました)
- 最近聴き始めたばかりの新参者ですが、毎週楽しく聴いています。(20代前半・女性・1年未満・若干支持派)
- この企画及び、このことに関する件でもりりんさんの意見には凄く感動しました。僕自身は水樹奈々さんファンメインで、もりりんさんのお好きな田村ゆかりさんのライブにも積極的に参加しています。それだけに同士、という感じでとても嬉しかったです。(30代前半・男性・15年以上・強い批判派)
(※文章中にある『もりりんさん』というのは質問者である筆者を指していることが明らかなので、そのまま掲載しました)
- 最近「櫻井さんと井口さんがパーソナリティの」(音楽)番組になっている気がする。櫻井さんと井口さんがパーソナリティの「音楽番組」であるべきではないのだろうか。新クール突入したのに1曲目でこむちゃCDの曲ばかり…。CD発売も公開録音もめでたいが番組はアニソン+αメイン(だと自分は思っている)である以上他の曲を流すべきだったと思うのだが。流すにしても適当な週に一気に流せば良かったのに。自分は彼らの曲以外が聴きたかった。アンチ的な意味でなく最悪パーソナリティは変わっていいんですよ。自分が聴きたいのは音楽番組だから。彼らの番組が聴きたい人が主だったらごめんなさいですが、それと本当に好きと言う訳でなく、パーソナリティの曲だからとか番組の曲だからみたいな理由でリクエストした人、止めて下さい。お願いします。多分(現状で)年間1位になった理由はこの辺りなのかなー、とは思っています。(20代前半・男性・9～12年・若干批判派)
- 前番組のドリカンの企画ユニット「やまとなでしこ」のシングル2作は、1stがオリコン最高91位に対し、番組最高位2位(年間では12位)、2ndは同最高78位に対し番組では6週連続1位(年間6位)。それを思えばこむちゃCDがそれを上回る62位に対して週間V4したのは個人的には許容範囲だ。2001年には堀江由衣が年間首位を達成したが、タイアップ作品の好評価やそれ以前からの声優としての人気・知名度の上昇からいってもまだ納得がいく。これを「何故堀江よりオリコン最高位が上の林原めぐみの曲(Over Soul)が年間1位にならない!」とか言うのは野暮だろう。だが特定の歌手及びアニメ・ゲーム等の曲の評価に甘さ(辛さ)があらかさまに強く出るようになった後期ドリカンでさえもあそこまで露骨ではなかった。単純に売上だけで決めるのは味気無いが、決定基準を透明かつ明確化しないと年間1位への疑惑は晴れないのではないかと。(30代前半・男性・12～15年・若干批判派)
- CD出すんだったら、収録曲数をもう3～4曲ほど増やして、ミニアルバム扱いで発売する形にしてほしかったんだけどなあ。(20代後半・男性・6～9年・若干批判派)

- 私はリスナー歴がそれほど長くないんでしょうが無いけれど(^_^);、どういう基準でランキングが決まるか、その仕組みについてたまに分かりやすく解説してくれれば助かるなあ~(*^_^*)昔から聞いている人ばかりじゃないしさあ(^_^♪)(10代後半・女性・1~3年・中道的)
- 仮に今度こういう CD を再び番組で作って出すのなら、次は世間へのアピール方法をきちんと考え、他方面でも注目を大いに集め、セールスをもっと集めて正々堂々ランクインして、変な疑惑を持たれないように上位に入って欲しい。それならば私としても上位入賞は歓迎だ。(30代前半・男性・12~15年・中道的)
- う〜ん…………(=_=)番組 CD が必要以上にチャートで高評価されてるというよりは、今年の他の曲のほとんどの出来がだらしなからじゃなかったのかなあ(-_-);昨年は質的にも量的にもアニメ・ゲーム・声優・特撮の各ジャンルの曲は超充実の大豊作だったけど、なんか今年はどうもインパクトが…(-_-);09~10年に起きたけいおんブームの反動かな~(^o^);!?でも年末に同作品の劇場版のテーマ曲が出るから、その勢いが業界全体を盛り上げる 2012 年の A&G ミュージックに期待しますか~々~\(^o^)/??(20代前半・男性・6~9年・若干批判派)
- 嘆願書を内容証明郵便にて送付しましょう!!(20代後半・男性・9~12年・批判派)
- ドリカンが始まったところから聞いているが間がかなり開いているので実質 6 年から 7 年程度しか聞いてない。始まった当時の TWO-MIX のランキングからして相当補正が入っているだろうと感じていた、それはいい。ただランキング方式の番組がこのまま続くとは思っていない。また番組を盛り上げるための企画として色々しなければならぬのはわかるがあからさまなランキング操作で 1 位をとるようなまねをするとうリスナーは離れていくことがわからないのだろうか。あとパーソナリティ 2 人自体に問題はないことを付け加えておく。(30代後半・男性・15年以上・中道的)
- 3 年前のパンサー皇子組織票事件でリスナーを辞めた身なので、詳しくは語りません。ただ一言申すなら奈々を抜き返して 1 位を取らせなかった時点で実力だとは思っていません。(30代前半・男性・12~15年・中道的)
(※この『パンサー皇子組織票事件』というのは、筆者がコラムにて『5・3事件』と呼んでいるものと同じであると思われる)
- アンケート製作者としては納得がいかない結果を生む事になってしまったこむちゃ CD であったが、私としてはパーソナリティーの番組企画 CD リリースは、むしろ遅きに失した感が大きい程だと思う。前任者の小清水時代や初代の植田時代にこうした試みが全く無かった事のほうが不思議だとも感じるくらいだ。(20代後半・男性・9~12年・若干批判派)
- こむちゃ CD は対象外にすべきだった。例えば古いのが、久米宏と黒柳徹子が曲出して、ザ・ベストテンで一位、獲るようなもの。視聴者は絶対に白ける。ランクイン楽曲に殆ど影響されない、文化放送のアナウンサーを使って、番組をリニューアルすべき。(20代後半・男性・9~12年・強い批判派)
- ここ 3~4 年、ゲストが出ている時間帯に読むメールの数が少ないように感じる。昔はゲスト有りの回でも最低 4、5 通は読んで当たり前だったのに…。1~2 通で終わらせて募集テーマとは関係ない話ばかりにトークの時間を割くという今の構成を見ても分かるように、最近は「リスナー置いてけぼり感」が漂って仕方がない。「こむちゃっと」の「こむ」は「.com」そして「コミュニケーション」の「こむ」、それをアピール材料にして A&G 音楽を通じリスナーとの心の交流を深めようとした、その開始当初の初心は何処へ消えた

のか…。番組ではツイッターも始めたとはいうが、チャットという手段を捨ててツイートという発信方法に変えた時点で、コンセプトの半分は既に死んでいると言っても過言ではないかもしれない。いっそ「こむちーとカウントダウン」とでも番組名を変えてしまえばいいんだ…。なんて愚痴のひとつもこぼしたいのは私だけだろうか?(20代後半・男性・9～12年・若干批判派)

- きちんとした音楽番組になっている。ただ、二桁台の放送時から聴き始めた身としては聴き始めの方がトークは面白かった。あみつけに変わってからのいい意味でも悪い意味でも安定してしまっている。冒険心がない。三十路禊 SP やアニスパみたいなノリもたまには欲しい。そういう意味では、ゆかちに変わった現在が一番期待できる。是非、改変期を乗り越えて欲しい。(20代前半・男性・6～9年・若干支持派)
- 個人的には現状維持で良いと考えています。スポンサーがつけば尚良いです。こむちゃ CD に対し年間 1 位を取ったことを批判する意見は否定しません。ただ、オリコン順位が低くてもランクイン条件(声優のシングル CD)を満たしている以上、年間 1 位を取る権利はあるでしょう。パーソナリティー効果があるのは不公平だという意見もあると思いますが、ドリカンでの「Merry Merilly」に対しパーソナリティー効果が全くなかったとは言えないでしょう。それを補正したランキングを作るのは不可能です。パーソナリティー効果もランキング構成の一要因と捉えています。私は一番組のランキングにそこまで熱くはなれず、発表されるランキングを淡々と受け入れ、ドリカン末期のようになり番組終了となってもあくまで一番組が終わるという認識です。ランキングを予想している者としてこのスタンスは誤っているのでしょうか。(20代前半・男性・3～6年・若干支持派)
(※末尾に回答者様のお名前がありましたので、その部分は削りました)
- 今のこむちゃ最高だと思う。パーソナリティーの二人も面白いし。ゲストとの絡みも上手いし。Party life! が年間 1 位になるのはそれだけこむちゃがこむちゃリスナーから愛されてる証拠だと思う。実際に自分は CD も買ったし毎週 party life! に投票してる。情報操作してるとかはないと思う。まあ、とにかくこむちゃがこのまま続いて欲しい。(パーソナリティーも変わらずに(10代後半・男性・1～3年・支持派)
(※この文章の句点の位置は原文では改行(句点なし)でしたが、文章の読みやすさを考慮して句点を挿入しました)
- あ…。ちなみに「問 7」の「その他」は、「今年の他の曲たちに力強さが足りなかったから」です(^_^;)うーん…。もっと頑張れたはずなんですけどね(。_。)惜しい。(20代前半・男性・3～6年・中道的)

7. まとめ

今回のアンケート調査で、このことを『残念な事態だ』と感じているリスナーが私の想像以上にいたことがわかった。回答をいただいた皆さんのコメントから、今回の騒動の『キーポイント』になりそうなことについて私なりの意見をまとめていきたいと思う。

(1) 今回の『こむちゃ CD』の暴走を抑えられるだけの対抗馬がいなかった

先行していた筆頭曲の「コネクト」(ClariS)自体、同週に「インモラリスト」(堀江由衣)・1週前に「プラチナ Lover's Day」(田村ゆかり)という激戦区に置かれていて、2か月が経過した4月下旬のあたりでは「虹色蝶々」(神谷浩史)・「SCARLET KNIGHT」(POP MASTER) (2曲とも水樹奈々)が続々とランクイン。その後の新曲ラッシュで圏外へと去っていった。その前後も全体的に『激戦』な様相をみせていたが、『こむちゃ CD』がランクインした8月以降、対抗となる強力曲は「純潔パラドックス」(水樹奈々)が1週後・「あすなる」(鈴木健一)が4週後、「Endless Story」(田村ゆかり)に至っては実に11週後という、いわば『次元の狭間』

になってしまったのだろう。『こむちゃ CD』は、『地の利』だけではなく『周辺の無風状態』までも味方に付けてしまったといえよう。

- (2) そもそも『こむちゃ CD』はミニアルバム扱い等の理由を付けてランクイン対象外にすべきだった。確かにトラック構成は『2人デュエット(メイン曲)・櫻井氏ソロ曲・井口嬢ソロ曲・メイン曲櫻井氏 Ver.・同井口嬢 Ver.・3曲のインスト』であり、これは『けいおん TV シリーズの挿入歌 CD』の『メイン曲・カップリング・両曲のインスト・メイン曲インストの楽器パート1つ抜き×5』に類似しているといえなくもない。ただ何故リリースが『9年経過しようとしている現在』でなければならなかったのか、前任の小清水嬢や植田嬢の時代にはこの企画案が出なかったのか、前任者の彼女たちをはじめとした『主要こむちゃファミリー』をも招いての『こむちゃオールスターズ』的な大掛かりなものにできなかったのか、といった点について私は疑問でならない。
- (3) 『こむチャートの決定システム』の不透明さが疑惑を増した。これについては私のサイト内『緊急コラム(9)』で述べている通り、『集計方法というブラックボックス』を複雑化させすぎたせいではないかと私は思う。複雑怪奇にし過ぎた故に、『特定の歌手に甘い(辛い)』という事象に対して『裁量権による調整というものが存在するのではないか』という疑惑が生じるのだ。だからといって、『こむチャート決定システム』のすべてをオープンにしろとは言えない。これを逆手に取ったキャンペーン運動が発生するのは明らかだからだ。しかしながら、ブラックボックスをそのまま放置してはいけない。せめて、『ランクイン権の有無を分ける基準』とか『ランキング決定の際に判断材料として使用する項目』といった部分は明確にしてほしいものである。『番組の総力を結集して入手した様々なデータのすべてを集計』という表現では全く以て論外なのだ。
- (4) こむちゃ開始当初の『目的意識』が失われている。こむちゃ開始当初にあった『(良い意味での)番組とリスナーとの繋がり』が、現在ではすっかり『番組側からの一方通行』に変化してしまっている。しかし、それでもなお『番組とリスナーとの繋がり』は以前と変わらない、いや、一層強くなっている」と半ば独善的に突き進んでいるのではないと思う。当初の目的を見失い、ゲストを呼ぶことに必死になり、時間配分もあまり顧みなくなり、トーク時間を確保するためにランキング発表の時間を削っていく……。正直、「これは『音楽ランキング番組』ですか？それとも『トーク番組』ですか？」と尋ねたくなるくらいだ。番組タイトルに『カウントダウン』と銘打っている以上、あくまでも主体なのは『ランキング』の方ではないだろうか。
- (5) 長い時間の経過によって『リスナー層』が変化した。前番組『ドリカン』の開始から来春で丸17年。当時『10代後半』だった私も『30代後半』になってしまうくらいの期間が経過しているのだ。『現役引退するリスナー』がいるのは必至である。たとえ聴きはじめの頃は『若手』であっても、時を経るにつれ『中堅』・『古参』となっていく、ついには『長老リスナー』の領域に達してしまうのだ。現に『10代前半のこむちゃリスナー』にとって、私のような層は『自分が生まれる前からそこにいる』ということになる。我々長老リスナーが「昔はもっと〇〇だった」と言っても、彼等若手リスナーにとっては「何それ？現在△△だから別にいいじゃん」となるのは十分あり得る話なのだ。
- (6) 『ドリカン時代』からのリスナーにとって、当時の番組や企画ユニット『やまとなでしこ』と比較してしまう。前述の通り私自身ドリカン初期からのリスナーであり、当時の状況と比べてどうだったか、とも考えた。確かに、『やまとなでしこ』がリリースした2曲も今回の『こむちゃ CD』と同じような状況下にあったかもしれない。しかし、今回のと明らかに違うのは、『これを凌駕する絶対的な曲がその時点で既に存在していたこと』である。'00の「もうひとりの私」では、その時点の年間暫定ランキングでは「未来からのエアメール」
-

(丹下桜)が独走状態にあり、ランクインしている期間においては「サクラサク」(林原めぐみ)に完封されていた。'01の「Merry Merrily」については確かに『6週連続1位』を記録したものの、年間暫定ランキングでは先行していた「マメシバ」(坂本真綾)や「Love graduation」(椎名へきる)には遠く及ばなかった。このことを踏まえると、今回は先行していた筆頭曲「コネクト」でさえも『力不足』だったのだろうか。

確かに、今回の件では多数の『悲喜こもごも』が交錯した。こむちゃに『心からの感謝と賞賛』を送った人、『残念だ』と溜息をついた人、『これもひとつの結果だ』と受け流した人、『ふーん』と特に感心を示さなかった人、『こんなのやってくれるか』とリスナーを辞めた人……。リスナーの数だけ『事態の受け止め方』が存在するのだろう。

私は今回『「冗談じゃない」と声をあげて立ち上がる』という手段に出た。周囲の声を求めて『このアンケート調査』を実施した。これがこむちゃに対しての『筋の通った行為』なのかどうかはわからない。ただ、少なくとも『意義のある行動』であると私は信じている。

最後に、この報告書が『今後のこむちゃの在り方』をもう一度考えるきっかけになってくれれば、と私は切に願う。

8. 謝辞

今回のアンケート調査に際して、アンケートサービスを提供していただいたアンケートツクレール様、および、アンケートに回答して下さった皆様に深く感謝します。

ⁱ もりりん牧場6周年記念緊急企画

(<http://www.geocities.jp/moririnbokujo/kikaku/enq2011.html>)

ⁱⁱ もりりん牧場研究小屋・緊急コラム(12)

(<http://www.geocities.jp/moririnbokujo/com/column/urgent12b.html>)

ⁱⁱⁱ もりりん牧場研究小屋・緊急コラム(9)

(<http://www.geocities.jp/moririnbokujo/com/column/urgent09.html>)